

令和5年度 長崎中学校 学力向上プラン

学 校 教 育 目 標 「自ら求めて学ぶ生徒の育成」
研究主題「しなやかに考えあきらめずに挑戦する生徒の育成」
～ 自律・調整・創造する活動を通して ～

指：取組指標

《目指す授業》主体的・対話的で深い学びの実現

	生徒主体の授業	理由を問う、説明する授業
国語	・学習課題の精選 ・ペアやグループ活動による話し合い活動の推進	・単元ごとに条件作文 ・知らない言葉や漢字はchromeや辞書で検索
社会	・思考をまとめ議論する場面の設定 ・疑問を持ち、学習課題を設定	・社会科の用語を使って説明する場面を設定
数学	・導入における生徒の問題理解を促す場面の設定・ペアでの活動を仕組む	・数学的・論理的に考えを書いたり、説明したりする場面の設定
理科	・実験を多数回実施 ・ペアや班での活動を仕組む	・予想・考察の時間の充実、ペアや班で説明しあう場面の設定
英語	・学習の流れを示す ・課題解決学習の推進	・個で考えペアで高める時間の充実 ・アウトプットを意識した協働学習
音楽	・合唱ではパートリーダー主体で活動 ・毎時間振り返りの記入	・鑑賞では作曲者の意図を、音楽の要素に着目して聴き、言葉で説明
技家	・作業をグループで実施 ・毎時間振り返りの記入	・作業レポートに工夫や考えを記入 ・ものづくりを通してPDCA
美術	・表現活動では選択場面を多く設定 ・chromeで自ら鑑賞する作品を選択	・鑑賞では美術的なものの見方・考え方で説明する
保体	・Jamboardで班活動 ・運動を撮影し分析	・運動を撮影しアドバイスをし合う ・実生活に即した課題の設定

《主体的な学び》生徒が目を見て主体的に学習問題へ取り組めるように教材研究を行い、振り返りを通して生徒自身でAAR（見通しー活動ー振り返りー復習（予習））サイクルを回し、学びを調整しながら教科の資質・能力を向上させる。

《対話的な学び》教材や先人、仲間等との必要性のある対話を生む学習問題を設定できるように教材研究を行い、協働的な学びができるように支持的風土の醸成を図り、チームとして問題解決に向かわせる。

指 授業アンケート(生徒)の肯定的割合「授業内で自己決定の場がある」85%(1学期 82%)「ペアやグループで深める」90%(1学期 85%)、「自分の意見をじっくりまとめる」80%(1学期 70%)「学習方法を見直す」80%(1学期 74%)。

～「自律」「調整」「創造」する活動を通して～

《家庭・地域との連携》

- ・宿題を原則設けず、主体的に家庭学習に取り組めるようにする。
- ・学習のスケジュール帳をつけさせ、自己管理する力を高める。

指 学校評価アンケート(生徒)「家庭学習の習慣が身に付いている」

→80%(R4 73%)

《学力の基盤づくり》

みんなで学ぶための4つの約束

- ① 3・2・1運動の徹底
- ② 相手の話をしっかり聴く
- ③ 伝えたい人に伝える大ききさで話す
- ④ 学び合いの場は自分たちで整える

授業づくりの4つの視点(長中スタンダード)

- 「な」 ながれをつかむ
「が」 がまんぶよく考える
「さ」 さらに深める
「き」 きーワードで振り返る

《教員の指導力の向上》

- ・校内研修で対話による主体的な学びや単元内自由進度学習をテーマに実践共有の場を設ける。
- ・授業参観実践週を設け、お互いの授業を見合い、授業を評価し合う場を設ける。

指 学校評価アンケート「研修が充実し、資質が向上している」→95%(R4 92%)

《本校生徒の抱える課題》

根っこの課題(質問紙調査・日頃の観察より)
「失敗を恐れる・逃避する」生徒が多い

学力課題(各種学力調査より)

知識・技能を問う問題の正答率は概ね全体の平均を上回っている。思考力・判断力・表現力を問う問題の正答率は全体の平均程度、数学と英語においては平均～低い結果が出ている。